

『日本特撮トンデモ事件簿』第1刷・正誤表

ページ	誤	正
P28. 15行目	特撮がチープ過ぎて違和感ありまくり	マンガ版と異なる演出に違和感ありまくり
P31. 7行目	ヒーローではなく悪党の名前が作品名というの珍しいが、	ヒーローではなく悪党の名前が作品名というの珍しいが、
P76. 1行目	大走査線	大捜査線
P86. 2行目	当時三〇歳だった実相寺昭雄と、同じく新進の脚本家・佐々木守が中心メンバーとなって	円谷プロダクションの監督・円谷一と、同じく円谷プロの脚本家・金城哲夫が中心メンバーとなって
P86. 4行目	仲間を助けるために事故死した青年の肉体に、宇宙人ウルトラセブンが宿り、	仲間を助けた勇気ある青年をモデルに、宇宙人ウルトラセブンが地球人の姿となり、
P86. 6行目	しかし実相寺と佐々木が主導となったことで、	しかし、異色の作風で知られる監督・実相寺昭雄と、脚本家・佐々木守が制作に加わったことで、
P86. 9行目～ 12行目	だが、初放映時の視聴率は～皮肉なものだ。	余談だが、同作の視聴率は放送開始当初から三〇%台を連発、二五話以降は下降線を辿るものの、最終回の四九話近くで二〇%台後半まで盛り返した(ビデオリサーチ調べ)。平均視聴率は二六、五%。当時の特撮番組としては「まずまずの数字」である。
P105. 6行目～ 7行目	円谷テレビ映画の元祖『ウルトラQ』も当初フジテレビとの企画であったが、契約上の都合で流れてしまい、その後TBSでの実現に至り、ヒット番組となった。	フジテレビは過去にも『WOO』という企画を円谷と制作する予定であったが、契約上の都合で流れてしまい、同時期にTBSが円谷に打診していた企画『アンバランス』が紆余曲折を経て『ウルトラQ』と形を変えヒット番組となった。
P152.11行目		文頭1マスアキ
P154.10行目	今でこそゴージャスな東映生田スタジオだが、	今でこそゴージャスな大泉撮影所だが、
P156. 4行目～ 6行目	結婚式で許嫁を～過言ではない。	文章削除
P161. 3行目	ダブルライダーが登場して	紆余曲折を経て、仮面ライダーは
P166.11行目	しかし現在でも祭りや縁日の露店では『仮面ライダー』始めキャラクターもののお面が無許可で堂々と販売されている。	ちなみに現在でも祭りや縁日の露店では無許可のキャラクターグッズが堂々と販売されている。
P166.13行目	中国の巻	香港の巻
P166.15行目	中国では	中国返還前の香港では
P167. 5行目	中国の	香港の
P177.12行目	凄惨	推参
P178.13行目	怪傑ライオン丸	快傑ライオン丸
P184. 1行目	猛の父親	猛の叔父
P192. 1行目	一クール二話分	一クール三話分
P193. 17行目～ 18行目	(一九七一年にロボットミ一手術実験の告発が	(* 編集部判断により病院名は伏字。一九七一年にロボットミ一手術と関連実験の告発が
P201.10行目	ファンの間では“宇虫人”とも呼ばれている	“宇虫人”とも呼ばれる
P218.14行目	世界の中でミミズを取り合う	世界の中でミミズ(ナメクジ説あり)を取り合う
P220.10行目	惑星M78のウルトラの母だ。	ウルトラの母だ。
P230. 6行目	セリフの後、	セリフと、
P230. 8行目	よって毎回悪役を倒す際に	よって悪役を倒す際に
P230. 12行目	警察に保護	警察に確保
P270.16行目	のちに『ガメラ』を撮る橋本以蔵監督	脚本家でもある橋本以蔵監督
P311. 5行目 (左側横書き部分)	アニメ『DAICON FILM』	『DAICON OPENING ANIMATION』
P319.3段8行目	てなもんやコレクション	てなもんやコネクション
P321.3段2行目	安井さん(*31)館長行委員長	安井さん(*31)が実行委員長
P326.10行目 (右下横書き部分)	市販されたDVD	市販されたVHSや海賊版DVD